



Only One

北総教育事務所 特別支援教育通信
令和5年1月号 No.4

2023年が始まりました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

各学校におかれましては、1年間のまとめの時期になりました。卒業生の進路も決定していく時期となります。お子さん本人はもちろんですが、各家庭との連絡・連携を密にしながら丁寧な進路指導をどうぞお願いいたします。

「発達障害」の子8.8% 4割は支援受けず 12/14 朝日新聞

※調査は10年ごとに実施。今回は全国の公立小中高校の児童生徒から8万9千人を抽出して実施。

昨年12月中旬に、文部科学省から全国の公立小中学校の通常学級に通う児童生徒の8.8%に発達障害の可能性があることがわかったと公表されました。35人学級であれば、1クラスに3人程度の児童生徒が発達障害の可能性があるということになり、このうち4割強は、授業中に丁寧な指導を受けられるようにする配慮・支援を受けていなかったとの調査結果でした。前回の調査(6.5%)から2.3%増加となりました。



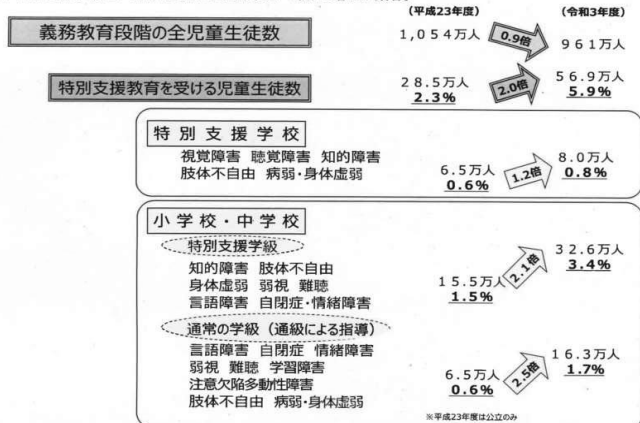
<調査結果報告>

また、文部科学省の平成23年から令和3年の10年間にわたる調査で、義務教育段階の児童生徒の数が約1割減少している一方で、特別支援学級に在籍する児童生徒数や通級による指導を受けている児童生徒数はそれぞれ約2倍に増加していることが分かりました。(右図参照)

障害者の権利に関する条約に掲げられたインクルーシブ教育システムの構築を目指し、児童生徒の自立と社会参加を推進していくためには全ての学校、全ての学級において、十分な学びを確保し、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた指導や支援を一層充実させていく必要があります。学校内においては、個に応じた指導内容や指導方法を検討し、特別な配慮等の必要性について管理職を含む全ての教員間で共通理解をするとともに連携を図ることがとても重要です。一人一人の教育的ニーズを正確に把握し、本人や保護者の意向を踏まえながら長期的な視点に立ち、一貫した教育支援が組織的に行われるように、チーム学校で取り組んでくださるよう引き続きよろしくお願いいたします。

特別支援学校等の児童生徒の増加の状況(H23→R3)

- 直近10年間で義務教育段階の児童生徒数は1割減少する一方で、特別支援教育を受ける児童生徒数は倍増。
- 特に特別支援学級(2.1倍)、通級による指導(2.5倍)の増加が顕著。



障害者の権利に関する条約に掲げられたインクルーシブ教育システムの構築を目指し、児童生徒の自立と社会参加を推進していくためには全ての学校、全ての学級において、十分な学びを確保し、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた指導や支援を一層充実させていく必要があります。学校内においては、個に応じた指導内容や指導方法を検討し、特別な配慮等の必要性について管理職を含む全ての教員間で共通理解をするとともに連携を図ることがとても重要です。一人一人の教育的ニーズを正確に把握し、本人や保護者の意向を踏まえながら長期的な視点に立ち、一貫した教育支援が組織的に行われるように、チーム学校で取り組んでくださるよう引き続きよろしくお願いいたします。

《学校で出会ったすてきな支援》



学校派遣ではいろいろなタイプの児童生徒と出会います。先生方からの相談も多岐にわたります。そして、「いいな」と思うすてきな支援や対応にも出会います。今回は、学校で出会ったすてきな支援を紹介します。

- 朝の支度のゆっくりな児童への支援：小学校1年生の担任の A 先生は、朝の支度がゆっくりでなかなか終わらない B さんのために、「朝のお仕度手順カード」を作って B さんの机の上に置きました。B さんは1週間後には時間内に支度が終わるようになったそうです。B さんは文字からよく情報が入る子なので、手順カードは大きめの文字でシンプルな単語にしたそうです。
- おしゃべりが止まらない児童の支援：小学校3年生の担任の C 先生は、思いつくとすぐに口に出してしまう D さんが話を始めると、目を見てしっかりとうなずき、D さんが次の言葉を発するタイミングで、グッと掌で押しとどめました。D さんはまだ話したそうにしていたのですが、思いとどまることができました。その後 D さんの意見を発表する時間をとるなどして D さんが達成感を得られるような配慮をしていました。
- 思い込みの強い児童の支援：小学校4年生の担任の E 先生は、「~でなくて
は、」という思いが強く、思い通りにいかないときに混乱しやすい F さんのために、日ごろから「~の予定だけど、もし変わったら・・・します」とか
「~がいいけど、そうならなかったら・・・しよう」とクラス全体にも伝えて
いました。実際、希望通りに物事が進まなくても、「~ではなかったけど、楽しかった
ね。」などと伝えるようにしていたそうです。半年くらいすると F さんは混乱する回数
が減ってきたとのことです。
- 整理整頓が苦手な生徒の支援：中学校1年生の担任の G さんは、整理整頓が苦手な机や
ロッカーの中が乱雑になりがちな H さんのために、毎日一緒に整理整頓をす
る決心をしたそうです。でも、担任だけでは毎日は難しいので、支援員さん
にもお願いしました。どのように整理したのかを言語化したり、一緒にやっ
たらきれいになったと喜んだりしながら半年続けると、H さんは「整頓すると気
持ちいいです。」と言うようになったそうです。でも、まだ独り立ちは難しく、一緒の
整頓は続けているそうです。
- ノートテイクが苦手な生徒の支援：中学校で英語を担当している I 先生は、板書をノー
トに写す作業が困難だったり、ノートをうまくまとめられなかったりする生徒のために、
先生が作ったお手本のノートを複数枚コピーしておきます。生徒の手元に置くと、今ま
で何も書こうとしなかった生徒が、がんばってノートを書く姿が見られるようになりま
した。別の中学校では、数学担当の J 先生が板書の内容をタブレットに入れてみたそう
です。全員の生徒が手元のタブレットを見ながらノートをとることができるようにした
ら、全員の生徒が書き終わるのが速くなったそうです。J 先生は「やはり手元だと書き
やすいようですね。今まで書き終わらなかった生徒も書き終わるようになりました。」
とおっしゃっていました。



(文責 正木恵子アドバイザー)